

センター試験文法語法問題の傾向分析

英語A班 高木 駿平 増田 雄基 松井 勇輔 植村 大八

1. はじめに

センター試験は、私たちが大学に入学するために、非常に関係してくる大規模なテストです。英語班である私たちは、このセンター試験で取り扱われる問題を集計、分析し近年出題される問題の傾向を探し出すことを目標として、この研究をスタートさせました。研究を始めるにあたって、私たちは近年実用的な英語の運用能力が問われていると考え、センター試験の出題にもそういった傾向があるのではないかと推測しました。

2. 研究方法

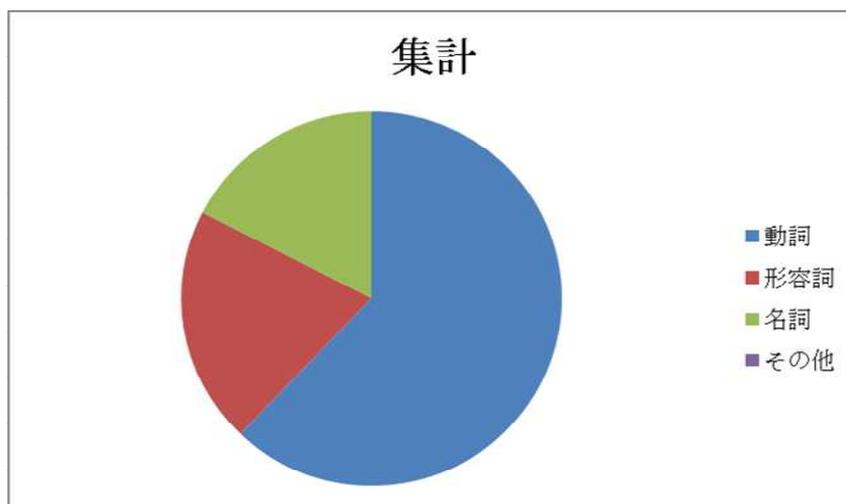
18年分のセンター試験の本試、追試の大問2の文法・語法問題のデータに絞って分析。そのうえで、2つの調査を試みました。

(調査1)動詞、名詞、形容詞…などの品詞で問題を分類し、どれが最もよく出題されるかをみる

(調査2)文法、語法、単語の知識を問う問題の3つにジャンル分けをし、その出題傾向の年度推移をグラフ化し分析する。

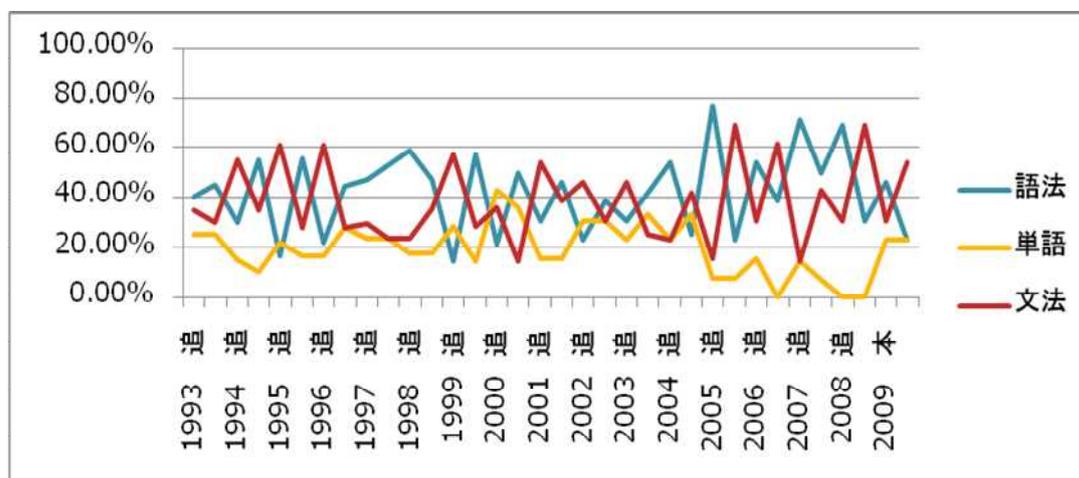
3. 結果

(調査1) 数ある品詞のなかで圧倒的に頻出したのは動詞・形容詞の問題でした。その次に頻出したのは名詞です。これは主に語法問題を中心として出題されました。



(調査2) この調査の結果が下のグラフになります

このグラフでは、センター試験の傾向は掴みづらく、私たちは試行錯誤を重ねましたが、傾向を見つけ出すことができませんでした。



4. 感想

傾向が掴めなかったことがなによりも残念でした。研究を始める段階で、こうした場合も考えて新たな調査を追加したり、調査方法を改めるべきでした。特に、私たちは語法・文法の種類分けについて、曖昧な判断基準で問題を分類していたため、このような特徴のないグラフを得る結果となったのかもしれませんが。

5. 発表

英語でプレゼンする難しさを知りました。原稿の発音や、正しくない表現を指摘・指導していただいたネイティブの先生には大変お世話になりました。



6. 研究を終えて

発表を終えて先生のご講評頂いた後、私たちなりにもう少し考察を深めてみようと思われ、班のメンバー達と意見を交換しあいました。「英語はやっぱり幅広い知識を必要とされているから、対策も地道に勉強するしかない」と一時は、投げやりな考察になったこともありました。しかし、過去三十年のセンター試験を見てきた私たちが思うに、対策の勉強としては、まず単語集で、ある程度の知識を蓄えることから始めるのが一番かと思います。地味な作業ですが、これをするとなしにセンターには太刀打ちできないなというのが、私たちの感想です。

7. 参考文献ならびに参考 Web ページ

大学入試センター試験過去問レビュー英語 2014 (河合塾 series)